

11月

2025年

みやま

第330号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



学会会場での当院職員による集合写真

第37回東京精神科病院協会学会に参加してきました

院長 平川 淳一

新宿の京王プラザホテルで10月28日火曜日に行われました。朝から多くの参加者が集まり、参加は東精協60病院のうち48病院、総数は806名でした。当院からも25名が参加し、5題の発表をしてきました。コロナ禍でなかなか集会での開催が難しい時期がありましたが、こうして皆が集って日頃の成果を発表できることはたいへんな喜びだと思います。5題は南3の黒部主任が多職種によるr TMSの実践、内科の横山さんの褥瘡に対する陰圧療法の改善度について、地域生活支援科の石橋科長の八王子市の早期訪問事業（はちまる）について、心理療法科の高梨さんのゲーム依存症の治療プログラム、作業療法科の水落さんのクライシスプラン介入の話など、会場でもたいへん質が高く好評で、誇らしく思いました。しかし一方で、他の病院もそれぞれ物凄く頑張っているのも感じました。皆で切磋琢磨し、東京の精神科医療の向上を目指したいと思いました。

【表紙】院長あいさつ 【P2】新人看護師として南3病棟で学んだこと

【P3】ポータブル撮影装置について 【P4】東精協学会レポート①

【P5】東精協学会レポート② 【P6】みやまマルシェ開催報告・編集後記

■ 新人看護師として南3病棟で学んだこと

病棟たより

南3病棟 看護師 田中 直美

私は平川病院で勤めながら准看護師の資格を取り、今年、長年の学生生活を終えて無事に正看護師の資格を取ることができました。同時に南3階病棟へ配属され、先輩ナースの指導を受けながら学び多き日々を過ごしています。初めて本格的に精神疾患のある患者さんとの関りを持ち、患者さんとのコミュニケーションや対応の難しさを学んでいる最中です。そこで、病棟での看護師の役割について、新人の私が学んだ事を述べたいと思います。

南3階病棟は『精神科身体合併症病棟』であり、身体的リハビリテーションを中心に、精神科の様々な合併症患者さんを受け入れている病棟です。精神疾患があるために、日常生活上の注意点やリハビリの必要性に理解が得られない、統合失調症や強迫性障害などの症状から日常生活に支障が出ている、そのことにより介入が難しい患者さんも少なくありません。そのような中で、どのように介入したら患者さんにリハビリの必要性などを理解してもらえるのか。また、ADL・QOLの向上や退院後の生活を見据え、どのような支援をしていったらよいのかをものすごく考えさせられています。

経験の浅い私は、患者さんに対して『…し

て欲しい』『リハビリ大事なのに…』と思いながら話をし、なぜ理解してくれないのかと悩みました。しかしそれは、患者さんの気持ちを何一つ汲みとっていないことに気付かされました。先輩ナース達がなぜ患者さんとの信頼関係を築けているのか。先輩ナースの会話を観察することで、基本である『傾聴』の重要性を学びました。表面上の会話だけでは患者さんには『ただ命令している人』に過ぎないのです。疾患を理解し、患者さんと向き合い話をするすることで、患者さんがなぜそのような行動をとっているのか、原因や理由を理解することができました。また、患者さんも私の話を聞いてくれるようになりました。

病棟が目標としている『患者さんが望む生活・暮らし』とはどのようなものなのか。患者さんとの関わりの中で、私が一つでも『個別性』を見つけることが、病棟の、また私の看護師としての役割だと思っています。看護師としてのスキル向上を目指し、今後も勉学に励んでいきたいと思っています。

入院患者さん
による花壇の
水やり風景



ポータブル撮影装置について

中央検査科(放射線科) 主任 診療放射線技師 中津川 強

当院には、胸部や腹部や骨など撮影するエックス線撮影装置や頭部など詳しく撮影するCT撮影装置が有る事はご存知の方も多いと思いますが、あと他にもう1台、『ポータブル撮影装置』が有る事はご存知でしょうか？他と比べて、注目しづらいポータブル装置について、どのような装置なのかこの機会にご紹介出来ればと思います。

ポータブル撮影装置とは、病室（ベットサイド）や外来などエックス線撮影室以外の現場へ、装置自体を持って行き撮影が出来る移動式のエックス線装置の事です。

ポータブル撮影装置の最大の利点としては移動の困難な患者様、具体的に容態が重篤な患者様、チューブやカテーテル挿入処置後もない患者様、そして救急目的で緊急撮影が必要な患者様の撮影など、以前は全てエックス線撮影室でなければ撮影が実施出来ない事で患者様へご負担を与えていましたが、ポータブル装置の導入により病室ベットサイドでも撮影が出来る様になり、検査に対する苦痛と負担が大幅に軽減されました。そして、こちら側から出向く事で撮影結果も迅速に報告ができ、早期診断から治療へ円滑に繋げる事が可能となっています。

また近年、流行が増加している感染症の拡大防止予防としても有

効に使用されており、例えば病棟などで感染が蔓延している状態の場合に、患者様を外へ移動させる事なく撮影出来るため、感染症を拡大させない取組みとして多くに活用されています。

加えて、万が一に災害時停電発生などの際、他のエックス線装置は使用不可となりますが、ポータブル装置においてはエックス線装置では唯一蓄電バッテリー駆動型のためフル充電で数日間使用可能であるため、被災直後の緊急撮影へ対応する事も出来ます。

当院は、病棟ベットサイドで撮影を行う際は低線量の撮影や病室のドアを閉めその際ベットカーテンも閉めて撮影を行います。これは、他に放射線を漏洩させない対応や被ばくの低減、そして撮影される患者様に対するプライバシーを配慮し安全に撮影する為に行っています。

これからも患者様にとって必要度が高く、そして画像診断にも優れているエックス装置を選んで、順次更新していきたいと考えております。



【ポータブル撮影装置の写真】

第37回 東京精神科病院協会学会

10月28日、新宿京王プラザホテルにて、第37回東京精神科病院協会学会が開催されました。当日は多くの参加者が集まり、当院からは口演発表5演題を発表致しました。発表後は他施設の職員と情報交換を行う場面も見られ、参加者にとって有意義な時間となりました。

当日の様子



東精協会長として
開会の挨拶をする
平川院長



シンポジウム
の様子

座長を務め
ました



東4病棟 古谷師長

南2病棟 丸山主任

教育講演の座長を務める平川院長



参加者で
集合写真





発表者より一言



反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS療法）を用いた 多職種連携によるうつ病治療の実践報告

南 3 病棟 看護師 主任 黒部 美恵



昨年に引き続き発表者として参加させていただき有難うございました。本年度は、開会式直後の大きな会場で、緊張感いっぱいの中での発表となりました。精神科単科の病院でrTMS(反復経頭蓋磁気刺激療法)を実施しているところは少ない中、当院でのrTMS導入から実施までの報告が行えたことは、これからのうつ病治療に大きく貢献できるものとなったのではないかと感じました。また、周囲の関心の高さも実感することができました。発表を終え課題が明確となったため、気持ちを新たにやるべきことに取り組んでいこうと考えております。ワーキングメンバーを初めとし、短い期間の中で、ご協力・ご助言いただいた全ての方に改めて感謝の気持ちをお伝え致します。今回の発表を糧に、今後もより一層看護活動に尽力していきたいと思っております。

NPWT 実施後の褥瘡治癒率・改善率の調査

内科病棟 看護師 横山 一成

今回の発表では、これまで積み重ねてきた研究成果を形にし、自信を持って伝えられたことが大きな達成感となった。質疑応答を通して自分の研究を客観的に見つめ直すことができ、新たな課題や今後の方向性も見えてきた。今後は得られた学びを後輩やチームにも共有し、研究的視点を持った看護実践を広げていきたい。



八王子市医療福祉連携型早期訪問支援モデル事業 における精神保健福祉士の取り組み

地域生活支援科 科長 精神保健福祉士 石橋 さおり



「発表が終わり、ほっとしています。当日は意外と(?)緊張しませんでした。(たまたま・・・だとは思いますが。)当日を迎えるまでは大変さもありましたが、1つのテーマを形にしてアウトプットすることは、考えを深めるよい機会になることを実感もしています。
何はともあれ、発表者、共同研究者の皆さん、お疲れさまでした!」

ゲーム行動症の治療プログラム（CAP-G）後の 当院におけるフォローセッションの取り組み

心理療法科 公認心理師 高梨 豊

今回初めて演題発表を行いました。皆様から貴重なご意見やご指導をいただいたからこそ発表することができたと感じております。この場をお借りして心より感謝申し上げます。当日は会場の方から質問があったり、懇親会で他病院の方から声をかけていただいたりもしました。自分の研究に興味を持ってもらうことの喜びを実感するとともに、今後の励みになると感じました。この貴重な経験を活かし、より質の高いプログラムを提供していきたいと思っております。



精神疾患を有する当事者への クライシスプラン介入による地域生活支援の実践報告

作業療法科 作業療法士 水落 耕



このたびは学会発表という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。今回の発表を通して、科内だけでなく院内で多くの方から数多くのアドバイスや温かいお言葉をいただけたこと、この場を借りて心より御礼申し上げます。準備期間は大変に思うことも多くありましたが、“やり遂げた”という自信を胸にこれからも日々の業務に邁進していく所存です。

今年も病院行事『みやまマルシェ』が開催されました

作業療法科 作業療法士 酒井 楓

今年は雨天が予想されていたため屋内での開催となりましたが、幸いにも閉場時刻まで天気を持ち、無事にみやまマルシェを開催することができました。

当院からは例年通り、模擬店・協賛品販売、来場者参加型イベント（ゲームコーナー、ポストカード制作、陶芸絵付け体験）をはじめ、看護部によるフレイル予防を目的とした健康チェックを出店しました。外部からはビーイングスペース萌様、むらさき様、Ring 様、ホープスカイ様、スタジオてくてく様、せんぼんぎ農園様、みどり安全株式会社様、(株) nicous 様、の皆様にご出店いただきました。手作りのパン、雑貨、新鮮な野菜などの販売やデジタルアートのワークショップがあり、訪れた方々の楽しそうな姿が印象的でした。

私は模擬店班として運営に携わり、販売や会場整理などを担当しました。中でも印象に残ったのは、いつもクールな患者様が食べ物を頬張りながら「こういう行事があると元気が出るね」と話してくださったことです。マルシェが人と人との交流の場であると共に、日常生活の中に楽しみや変化をもたらす場となっていると感じました。また、当日の模擬店運営では、混雑時の対応や空席の確保などに苦戦し、来場して下さった皆様にはご不便をおかけする場面もあったかと思います。しかし、地域から来場された方々が座席を譲り合ったり、各ブースの職員同士が声を掛け合ってスペースを確保したりと、皆様のご協力があったみやまマルシェが成功できたと思っています。

最後にはなりますが、みやまマルシェに携わって下さった皆様、ありがとうございました。今後も地域とのつながりを大切にしながら、多くの笑顔が生まれる行事として発展していくことを願っています。



編集後記

11月のある週末、神宮外苑へ出かけるとイチョウ並木通りには写真撮影による外国人観光客で溢れかえっていました。また周辺の公共施設では天皇杯サッカー、大学野球、大学ラグビーが同時に開催されており、正に『スポーツの秋』らしく、熱気と歓声で盛り上がっていました。観客にふと目をやると、コートやダウンといった防寒への装いとなり、一気に冬が近づいた気がします。皆さんは冬支度どこまで進んでいますか？

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

